投資信託を活用した資産形成について考える「投信フォーラム2012 in 長野～あなたのライフプランに投資信託 考えてみませんか?～」（主催・投資信託協会、信濃毎日新聞社、全国地方新聞社連合会）が6月16日、長野市で開催されました。長引く超低金利に加え、社会保障制度の将来が不透明さを増す現代日本。約220人の聴講者は、個人ができる資産防衛策の一つとして、専門家が運用する「投資信託」の特長やその生かし方について熱心に学びました。概要を紹介します。

第2部　FPによる投資信託セミナー

リスクと上手につき合うコツ ～投資信託の個性・特徴を知って～

ファイナンシャルプランナー　野尻 美江子氏

【のじり・みえこ】　1972年、東京都生まれ。ラジオNIKKEI「マーケットトレンド」火曜日コメンテーター。著書に「これなら勝てる！ 株式投資の本」など。

意味合いが違うリスク

お金の世界でいうところのリスクと、日常生活でイメージされるリスクは、本質的に意味合いが違います。お金の世界でいうリスクとは金融商品の値動きの幅。他方、日常生活でのリスクは「イコール危険」というイメージが多いかと思います。一般的には、危険なものは、徹底的に避けるのが望ましいでしょう。しかし、投資の世界では、「イコール危険」ではありませんし、リスクと向き合うことが必要です。

理由は二つあります。一つは、運用環境が厳しいという現実です。個人のお金の預け先として、元本保証で高金利、引き出しは自由―こういう商品があればいいのですが、今日では幻想です。確実性の高い預貯金は絶対に必要ですが、労働収入が年々減少して行く時代、資産を増やせないまでも、一部は投資を考え、減少幅を抑える必要があるでしょう。

二つ目の理由は心情に問い掛けてみると分かりやすい。投資商品は値動きを繰り返す場面が多々あります。それを、預貯金と違って怖いーと思う一方で、ここにチャンスがあると思う気持ちもあるのではないでしょうか。

個人にも有利な武器

お金の世界でチャンスを生かすには、リスクを取ることです。残念ながら、世界のマーケットには初心者レーンはありません。私たち個人も、プロと同じマーケットで戦わなければなりません。しかし、個人投資家にも有利な武器があるのです。

一つは時間です。個人投資家には決算がありません。もちろん、一定のスパンで棚卸しは必要ですが、決算ごとに利益確定が求められるプロの機関投資家からみるとうらやましい限りです。

二つ目は壁がないこと。投資先を限定せず、日本株から新興国ファンドまで、自由に行き来できます。機関投資家はそうはいきません。

三つ目がスピード。基本的に自分一人で判断できますから、素早い意思決定ができます。

この三つを武器に、利用する金融商品の個性や特徴を知れば、戦いやすくなります。

投資信託は、個人では投資が難しい国を含め、幅広い対象に、少額から投資することができます。ただ、運用を専門家に任せる分、信託報酬などのコストがかかります。

ファンド選びは、自分の希望に合わせて行いましょう。つまり、世界中なのか、一部のエリアなのか、一つの国なのか、投資地域を決め（ステップ1）、株なのか、債券なのか、REIT（不動産投資信託）なのか、投資対象を選び（ステップ2）、投資手法はどうするか（ステップ3）を決めましょう。経済指標によるインデックス運用は、コストは安いのですが、経済全体の傾向を反映しますから、現在のように市場が混乱している状況では好成績は望みにくいものです。もっとも、運用者の相場観を反映したアクティブであってもインデックスに負けているファンドがあるのも事実です。よく研究してください。

最終判断は自分で

運用自体はプロが行いますが、ファンドを選び、買い付けと売却の判断自体は、くどいようですが、自分でしなければいけません。

注意したいのは「分配金」に対する誤解です。預貯金の利息と投信の分配金は根本的に違います。預貯金の利息は元本とは完全に別のものですが、分配金は純資産から出るもので、収益部分から支払われる（普通分配金）とは限らず、場合によっては預貯金の元本に当たる部分からの払い戻しに相当する（元本払戻金（特別分配金））ことがあるということです。どちらに該当するかは税金がかかる（普通分配金）か、かからない（元本払戻金（特別分配金））かで一目で分かります。

長期投資のすすめとは矛盾しますが、定期解約という発想も必要です。収益と勘違いして、分配金欲しさに一つの投信に集中してしまうケースがままありますが、リスクが高く避けたいものです。「使うお金を増やす」という意味でも、一部を定期解約してみてはいかがでしょう。

シニア世代でも、孫に託すとか、資産継承を目的に投資を実行している方がいます。現在の日本のように低成長であれば、現役世代から始める老後対策が有効です。目的にあった投資こそが成功の秘訣（ひけつ）です。

リスクという値動きの幅の中で、情報に振り回されることなく、自分なりに根拠をもって、投資に挑戦してみてください。

第1部　特別講演　落語と投資信託 ～信じて託すということ～

落語家　立川 談慶氏

共通する「信託」「長期」「リスク」

【たてかわ・だんけい】　1965年、丸子町（現上田市）生まれ。慶応大学経済学部卒業後、㈱ワコール入社。91年、立川談志18番目の弟子として入門。2005年真打ち昇進。3月まで2年間、佐久市コスモホール館長も務めた。

末永き付き合い

「信託」「長期」「リスク」―。投資信託と落語を比べたとき、まるでかけ離れたもののように感じる二つの世界に、この三つの言葉が共通のキーワードとして浮かんできます。

私は投資信託の経験がまだありませんが、「信託」、良い言葉ですね。信じて、託す。実は、落語界はまさに、この「信託」というシステムで成り立っています。落語界に入門するには一門の師匠に弟子入りして、見習いから始まります。「前座」「二つ目」「真打ち」。そして大看板。あとはご臨終だけです。途中でイヤになったって、師匠をかえるなんてご法度。信じた以上、師匠にわが身を託すのが落語家の世界です。これが見事に「信託」と合致するなどビビッときたわけです。

長期のシステムという点も似ています。逆を言えば、長期に付き合うことでしか信用を得られないのが、落語界。私の師匠は昨年亡くなりました立川談志ですが、私も「談志さんのところにいた人ね」「あの厳しい前座修行を経て真打ちまでなった人ね」という信用を得ることで、いまこういう形で商売できているわけです。

人間関係も、長くお付き合いすることで信頼関係が深まっていく。金融商品だって、欲をかいてあれこれ乗り換えてみても、結果、そんなにもうからないもんですよね。

世の中を乗り切るパワー

そして三つ目のキーワード「リスク」。皆さん、リスクのない人生がいいと思うかもしれませんが、考えてみたら大学入試も就職も皆リスク。結婚だって同じようなもんです。相手が良い人だという保証はどこにもないんですから。

談志師匠を選ぶのも、前座修行もリスク。「あなたも落語家になれる」という師匠の本を妄信して26歳で弟子入り。本では2年で二つ目になれるって話だったのに、9年半かかっちゃったんですから。もう自分自身が〝歩くデリバティブ〟みたいなもんです。

大卒でワコールに勤めていろんな知識を身につけました。マーチャンダイジング（商品化計画）も覚えました。それを振り切ってまで落語家をめざした結果、炊事、洗濯、掃除からですよ。こんなことして何の役に立つのかと思ったけど、結婚してから非常に役立っています。リスクの何が幸いするか分かりませんね。

リスクを避けて生きることはできない、そう思った方がいろんなことが受け入れやすくなる。世の中リスクだらけと割り切って、じゃあリスク分散をーとなるのですが、そのお話は専門家の方々におまかせするとしましょう。

弟子入りの際、私の両親の前で師匠が言いました。「最低限、殺しゃしませんから」。確かに、命に危害が及ぶようなことはなかった。ただ厳しいだけです。すばらしいセリフですよ。最悪のことにはならないなら良いじゃないか、そう思えば、リスクだらけの世の中を乗りきるパワーが生まれてくるような気がします。

主催／投資信託協会、信濃毎日新聞社、全国地方新聞社連合会
後援／金融庁、金融広報中央委員会、財務省長野財務事務所、大阪証券取引所、信託協会、全国銀行協会、東京証券取引所グループ、日本証券業協会、日本損害保険協会、不動産証券化協会、共同通信社

運用会社の専門家が答えるコーナー

日興アセットマネジメント マーケットコミュニケーション部長　汐見 拓哉氏

市場に居続けることに意味がある

【しおみ・たくや】　1967年、香川県生まれ。92年、日興証券（現SMBC日興証券）入社。95年、日興投資信託（現日興アセットマネジメント）に転籍。投資顧問業務などを経て現職。

野尻　投資家のお金を預かる運用会社は、どういうお仕事をしているのでしょうか。

汐見　運用業務はファンドマネジャーやアナリストが手掛けています。最もポピュラーな企業調査アナリストの場合、医薬品とか電機とか業種別にいて、1人当たり数十社を担当しています。同じ業種を担当するのは比較がしやすいから。1社あたり年数回、取材訪問しますから、企業訪問は1年で数百回にのぼります。ほとんど自分の会社にいません。

ファンドマネジャーというと、1日中モニター画面をにらんでいる印象があるかもしれませんが、全然違います。投資する会社に行って取材しています。こちらも自分の会社にはほとんどいません。投資判断をするには、経営者に会って話を聞くのが一番だからです。アナリストを使いこなす立場ですね。

野尻　「分配金」に対する誤解が多いようですが。

汐見　そもそも投資の基本は、資産運用して利益が出たら、それを運用資産に繰り入れて雪だるま式に増やす「複利効果」を狙うものです。ところが、毎月分配型の投信商品は、その都度お金を引き出してしまいますから、その効果が働きにくい。年金のように毎月確実にお金を受け取りたいという人向けの商品です。ただ、資産の取り崩しはあっても、運用している以上、取り崩すだけの預貯金よりはお金が長持ちする可能性は高いと言えます。

野尻　投資に成功していない人にアドバイスを。

汐見　投資においては、値下がりしているから解約する―という選択肢はありません。解約していいのは①投資目標が達成されたとき②どうしても現金が必要なとき③ファンドの性能が落ちたとき―の三つです。3番目の「性能」は運用会社が判断しますから、個人で決める必要はありません。

もう一つ強調しておきたいのは、市場に居続けることの大切さです。変動する商品が相手ですから、値動きは当たり前。リーマンショックとか欧州債務危機など大きな出来事があると、いつも以上に下がります。でも、大きく下げた後は大きく上がりやすいもの。その時、市場にいなければ、チャンスは生かせません。

日本にいると世界の成長は実感しにくいのですが、世界経済はこれから2050年ごろにかけて、長期的に伸びます。人口も増えます。途中ではいろんなことが起きるでしょうが、この大きな川の流れに乗って、大きな成果を追ってほしいと思います。

あなたのライフプランに「投資信託」、考えてみませんか?

時間を有効活用してリスクを小さく。
【資産の分散】【長期の保有】【時間の分散】
投資信託はあなたの資産運用のお役にたちます。

ガイドブックプレゼント（各1冊セット）　無料

（2012年版）

（2012年版）

ご希望の方は、投資信託協会ホームページからお申し込みください。
ハガキの場合は郵便番号、住所、氏名をご記入の上、下記までご請求ください。
（お届けまで2週間程度かかる場合があります。）

〒103-0026　東京都中央区日本橋兜町2-1
東京証券取引所ビル6階　（社）投資信託協会SN係
※いただいた個人情報は、本ガイドの送付のほか、当協会が開催する講演会やセミナーのご案内に使用することがあります。

携帯電話はこちら

投資信託協会ホームページで

新連載　「著名人が語る・お金のはなし」が始まりました。

新機能　投信総合検索ライブラリー
・交付目論見書の閲覧
・基準価額の検索やリターン計算
・取扱販売会社や販売会社別手数料の検索
など

［投信総合検索ライブラリー］

投信協会　社団法人 投資信託協会　www.toushin.or.jp　投資信託協会　検索